

2日間

難易度  
中級

# 法体系の違いからみた 外国商標制度の特記事項とリスク対策

～国際登録、米・欧・中・各国商標制度の特殊性と対応策～

講師 青木 博通 氏

ユアサハラ法律特許事務所  
パートナー・弁理士

日時 2026年6月30日(火)、7月2日(木) 13:30～16:30

◆経済のグローバル化により、大企業のみならず、中小企業も海外進出を余儀なくされています。海外での商品の生産、販売、流通には自社商標の登録が不可欠です。

◆本講座では、まず、外国商標出願、調査の基本について、商標の種類、商品・役務の記載方法（例：namelyとin particularの違い）を踏まえて解説します。次に、法体系の違い、法改正の動向を踏まえて（使用義務強化の傾向）、各国商標制度の特記事項と対応策について、最新の改正情報を含め解説します。

◆日本と全く異なる法体系（使用主義、フロード、消費者保護中心）からなり、注目される最高裁判決が続く米国、有効登録件数は約4987万件（2025年）で模倣品の多い中国、27か国をカバーする欧州連合商標制度については、中間処理の方法も含め、特に詳しく解説します。

◆インターネット・メタバースに関する権利形成・商標権侵害の日米欧の比較や、NFT関連の動向も解説します。

◆商標の国際登録制度「マドリッド協定議定書」については、最近顕在化してきたリスクとその対応策、ハーグ協定（意匠の国際登録制度）との比較と活用法についても言及します。

◆最後に、復習の意味で、外国商標制度の項目毎（横串）に、日本にはない特殊な制度を中心に、コンセント制度、リピート出願の禁止等、各国制度をテンポよく紹介します。本講座を受講することにより、各国バラバラな外国商標制度について、最新の情報に基づき、法体系を踏まえて立体的に効率よく学習することができます。

◆AIを使いこなすには、各国制度の法体系の理解が不可欠です（例：法体系的にAIの整理はおかしい）。

## 【解説内容（予定）】

1. 外国商標出願の基本  
（商標の種類、商品・役務の記載方法）
2. 外国商標調査の基本  
（識別性、類否判断、各国特有のチェック）
3. 外国商標出願のルートと出願戦略
4. 法体系の違いからみた外国商標制度
5. 各国商標制度の特記事項と対応策  
米国、カナダ、欧州、ロシア、中国、アジア(ミャンマー)  
オセアニア、中近東、アフリカ、北米、中南米
6. マドリッド協定議定書のリスクと対策  
（1）マドプロのリスクと対策  
（2）マドプロとハーグ協定（意匠の国際登録制度）の比較と活用法
7. 他の法律との関係  
（1）不正競争防止法（2）パッシングオフ  
（3）著作権法（4）意匠法（5）民法
8. グローバル企業の商標戦略
9. 項目別各国制度のまとめ  
（コンセント、リピート出願禁止等）
10. 日米欧のインターネット・メタバース上の  
商標権侵害の比較

テキストはPDFで共有させていただきます

◇この研修は、日本弁理士会の継続研修として申請中です。この研修を受講し、所定の申請をすると、外部機関研修として5単位が認められる予定です。（※zoomにてご参加下さい。アーカイブ視聴は単位認定対象外です。）



LIVE

ライブ配信だからその場で講師に質問可能 & アーカイブ配信も実施（各講義翌日から1週間）  
・聞き逃しても安心！期間内はなんども。  
・再生速度を変更可能！

受講料 会員20,400円 一般24,000円（※税込）

 申込 [http://www.jiii.or.jp/kenshu/chizaikenshu\\_tanki.html](http://www.jiii.or.jp/kenshu/chizaikenshu_tanki.html)

お問合せ先 (一社)発明推進協会 研修チーム TEL 03 3502 5439

申込みページ  
QRコード